

2 岡山県の林業

1 岡山県の林業

(1) 岡山県の森林

岡山県全体の面積の約70パーセントが森林です。また、その3分の1は土砂くずれやこう水などの自然災害を防ぐために、大切なはたらきをする森林を守るために整備されている保安林です。

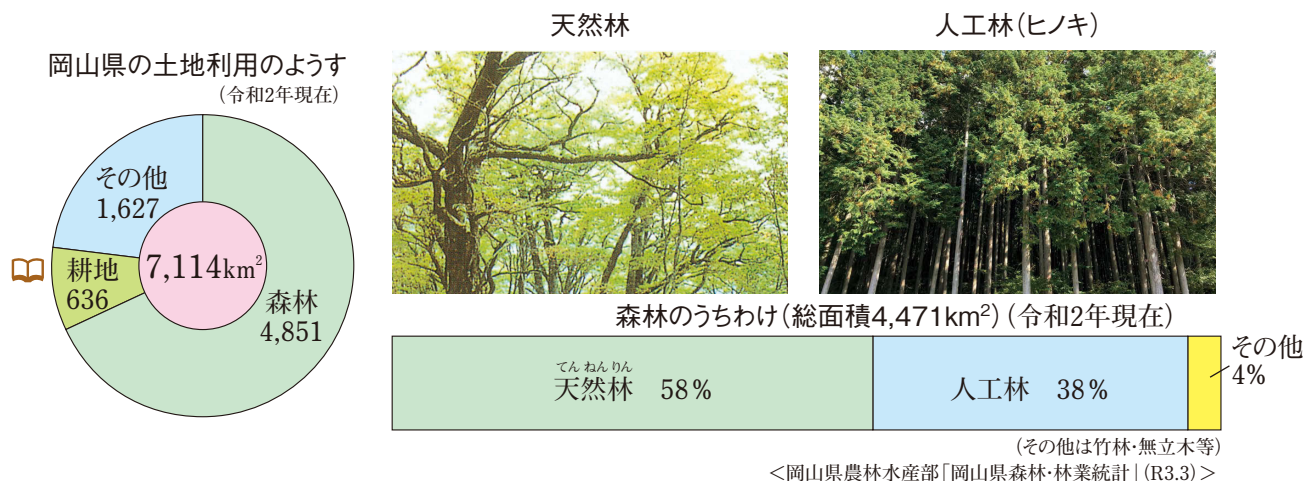
① 天然林と人工林

岡山県の森林には、どのような木が多いのか岡山県農林水産総合センター森林研究所の方に教えていただきました。

森林は、自然のままの天然林と、人が植林した人工林とに分けられます。

天然林では、くぬぎやならなどの木があり、秋には美しい紅葉が見られます。これらは葉の落ちる木で、落葉樹です。それに比べて、人工林は針葉樹が多くなっています。人工林の針葉樹は、スギやヒノキが多く、ヒノキが74パーセント、スギが22パーセント、松が2パーセントぐらいです。

人工林の多くは、植林してから40年以上たっていて、家の柱や板としてりっぱに役立つくらいに育っています。



② ^{りん さん ぶつ} 林産物の生産

岡山県で生産している林産物は、杉やひのきを加工した木材の生産が多くなっています。特にひのき丸太の生産量は日本一です。しいたけやまつたけの生産もさかんです。

しいたけ

しいたけを育てるには、まず、くぬぎやならの木を1メートルほどの長さに切って、しいたけ^{きん}菌を植えて、^き「ほだ木」をつくります。



しいたけのほだ木

くぬぎの木から出る樹液はカブトムシの大好物だよ！



ほだ木を、林の中のあまり日のあたらない、風通しのよい場所で育てます。発生の時期を変えるため、ハウスの中で栽培することもあります。

岡山県の令和4年のしいたけの生産量は、^{ほし}乾しいたけが全国22位、生しいたけが16位でした。

まつたけ

まつたけは、^{あか まつばやし}赤松林に生えるきのこです。最近、生産量がたいへん少なくなったので、とてもねだんが高くなってしまいました。

岡山県では、まつたけの生産量をふやすため、落ち葉や下草を取り除いたり、^{のぞ}じゃまになる木を切ったりして、まつたけによい環境をつくる努力をしています。岡山県の令和4年のまつたけの生産量は、全国5位でした。



赤松林とまつたけ



伝統的な竹製品づくり



竹製品

竹

身近にある竹も、森林資源^{しげん}のひとつです。竹は家の建築に使われたり、農業や水産業でもよく使われます。また、わりばしとしても利用されています。伝統的工芸品の竹細工をつくっている、真庭市の月田^{つきだ}をたずねてみました。

そこでは、地域の人たちが、ま竹^{だけ}を使って竹かごなどいろいろな竹製品をつくっていました。

みつまた

ふだんの生活で使っている紙幣^{しへい}の原料がみつまたです。みつまたの木を切り、むき取った皮を水で洗ってかんそうさせま



みつまたの皮むき作業

す。それを、お札をつくる独立行政法人国立印刷局^{どくりつぎょうせいほうじん こくりつ いん さつ きょく}におさめています。

みつまたは、真庭市や美作市などの水はけのよい山の斜面などで栽培されています。みつまた栽培は、じょうぶな苗木^{なえぎ}をつくること、草かりをしてやることが大切です。3年ぐらいで収かくします。

2 林業の仕事をしている人々の暮らし

(1) 林業のさかんな^{ちいき}地域

真庭市^{まにわ}は、岡山県の北部の中国山地にあり、鳥取県^{とっとり}に接しています。森林は、真庭市の面積の5分の4をしめています。杉やひのきが育つのに適した土地が多く、県内でも林業のさかんな所です。



よく手入れされた森林(真庭市)

切った木は、市内にある製材所で加工します。製品は、県内だけでなく、近畿地方などにも出荷しており、地域の産業として大きく成長しています。

(2) 林業をおもな仕事とする^{かてい}家庭

山の仕事の1年間

真庭市で林業を主な仕事にしている福田^{ふくだ}さんは、お父さんと二人で山の仕事をしています。毎年3月には、植林をします。そのための苗木^{なえぎ}は、森林組合を通して買っています。木は、植えてから、50年から60年しないと、木材として使用できるまで育たないので、長い間、根気よく世話をしています。



植えた木が、草や雑木^{ぞうき}に負けないようになるまでは、毎年下草をかったり、まきついたつるを切ったりしています。この下草がりは、夏の暑い時期の仕事なので大変な作業です。

1 年 間 の 作 業 ご よ み

1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
枝うち	植林	除 ^{じょ} ばつ 間 ^{かん} ばつ	下かり・つる切り					除 ^{じょ} ばつ 間 ^{かん} ばつ		枝うち	
											
植林	下かり	間ばつ	枝うち								

少し大きくなってくると、よい木だけを大きく育てていくために^{じょ}除ばつといって、曲がった木や虫の入った木などを切りたおします。もっと大きくなると、木の枝と枝とが重なりあうようになります。すると、林の中に入る日光が少なくなります。そこで、^{かん}間ばつといって、こみあった木を切って木と木の間をひろげ、日光があたりやすくしています。

また、ふしのない、下から上まで同じ太さの木にするためにも枝うちは大切な作業です。

大きく育った木は、切りたおして、真庭市にある木材市場^{いちば}へ出荷します。たくさん切るときは、森林組合にたのむこともあります。



真庭市の木材市場

3 これからの林業

(1) 林業の機械化^{き かい}

山の仕事は、斜面が急なところが多く、作業がむずかしいこともあり、最近では山で働く人がへってきました。また、手入れがゆきとどかず荒れたままになっている森林が増えているのも問題です。

そこで、林道をつけたり、いろいろな作業を機械化したりして、林業の生産性向上に取り組んでいます。



林業機械による造材・運搬作業^{ぞうざい うんぱん}

(2) コンテナ苗による作業の省力化

容器の中で育てる「コンテナ苗」は、根に土が付いた状態で植えるので、植えた後の生育がよくなります。また、植える時にも専用の器具を使うことで簡単に植えることができ、作業の省力化につながります。



コンテナ苗



植栽の様子

(3) 岡山県農林水産総合センター森林研究所

勝央町^{しょうおう}と真庭市にある森林研究所は、よい森林をつくり、林業をさかんにするための研究や木材の新しい利用や加工技術^{ぎ じゆつ}の研究をしています。

勝央町^{しょうおう}にある研究所では、性質がよく病気や害虫に負けない^{なえ}苗木の種子や、花粉の少ないスギやヒノキの苗木の種子をつくった

り、自然と調和したよりよい森林をつくったりするための研究をしています。

また、森林の中にはえているきのこなどを人工的に栽培する方法や、育てた木を効率よく運び出す方法などの研究をしています。

真庭市にある研究所では、木材の強さや腐^{くさ}りにくさ、人工で乾燥する方法などを研究しています。

最近では、今まで利用できなかった木材をチップやペレットにしてストーブなどの燃料にしたり、木の粉をウッドプラスチックにして自動車の部品に利用するなど、新たな分野でも使われ始めています。

樹木は大気中の二酸化炭素（CO₂）を吸って、光合成をしています。木材を大切に使うことは「地球温暖化防止」に役立ちます。



ウッドプラスチック(木の粉)を使ったうちわ

(4) 県民参加による森づくり

岡山県では、森林の働きや大切さ、木材の利用について県民にもっと知ってもらい、県民みんなで森林を守り育てていこうという取組を進めています。



苗木の植栽



枝うち



森林環境学習

この取組では、小学生や地域の住民など多くのボランティアが参加して、森づくり活動を体験し、人々の生活や森林との関係について学び、森林・林業への理解を深めています。